学校運営協議会　会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第８条第１項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

１　会 議 名　　令和５年度吉城高等学校　学校運営協議会　（第３回）

２　開催日時　　令和６年２月７日（火）１５：２５～１６：５５
　　＊１２：５０～「吉高地域キラメキ（ＹＣＫ）プロジェクト報告会」参観

３　開催場所　　飛騨市文化交流センター

４　参 加 者　　会　　長　川上 佳洋　　宇宙まるごと創生塾飛騨アカデミー理事長
（敬称略）　　副 会 長　沖畑 康子　　飛騨市教育委員会教育長
　　委　　員　都竹 淳也　　飛騨市長
　　渡邉 正憲　　㈱飛騨ダイカスト代表取締役
　　舩坂 志乃　　元育友会女性部長
　　竹林千恵子　　前育友会女性部長
　　田中 昌之　　一般社団法人　飛騨青年会議所理事長（欠席）
　　柴田 駿一　　同窓会会長
　　谷口 貴光　　育友会長（欠席）
　　牧田 美奈　　育友会女性部長
　　オブザーバー　布俣 正也　　岐阜県議会議員

　　学 校 側　野々山 伸一　　校長
　　渡辺 圭子　　教頭
　　田本 里美　　事務長
　　小澤 耕　　教務主任
　　小原 薫　　生徒指導部 教育相談係
　　井田 和実　　進路指導主事
　　桐谷 直嗣　　特別活動部長
　　谷口 智康　　キャリア推進副部長
　　野村 剛志　　理数科主任

５　会議の概要（協議事項）
（１）今年度の報告　※各分掌長より今年度の取組について説明。
【学校経営・組織運営】
意　見１：昨年度の現状のところに「『総合的な探究の時間』の取組内容について再考が必要とあるが？」
⇒昨年は『総合的な探究の時間』に、生徒自身の進路探究に加え、地域課題探究を行っていた。今年度はその地域課題探究の部分を学校設定科目『地域プロジェクト学習』として別立てで行い、総合的な探究の時間は進路学習に特化した。結果、今年度の生徒の評価は上がっている。

【教育課程・学習指導】

意　見２：授業内での「個別最適な学び」ではどういうことを行っているのか。

⇒生徒間の話し合いやグループワークは、教え合いの中で学力に課題を抱える生徒にも効果がある。またＩＣＴは一斉回答が出来ることもあり、一人一人の理解度が分かる。教材ではmanabaというすき間時間でも学習支援が行えるアプリを使っている。小テスト機能もあり、出来なかった記録も残るので生徒の理解度を把握しながら授業を行うことができている。

【生徒指導（教育相談）】

意　見３：本校に通っている息子達からトラブルのようなことは聞いていない。上手くいかなかった時には身近にいる先生にすぐ話せるということは聞いた。そういうすぐ話せる大人、先生がいることはすごく大事だと思うので、そのような環境作りをさらに進めてもらいたい。

【進路指導】

意　見４：推薦やＡＯで合格を決める生徒は高校時代、子ども時代に取組んだことがプラスに働いているのか。

⇒ボランティアや地域の活動が大変良かったというポジティブな反応が卒業生アンケートからも分かる。

意　見５：来年度から共通テストで情報Ｉが入ってくる。それに対してどういう対応を考えているか。

⇒国公立大学に進学する場合は概ね必要になる。学び探究コースや理数科で補習等、対策を考えている。

【特別活動】

意　見６：特別活動面で活躍する生徒が特定の生徒になるということは起こりがちであるが、実はやってみたいと思っている生徒はいる。一歩踏み出す為に教員側から押してあげてほしい。また、普段前に出る生徒が初チャレンジした生徒を支えてあげるように口添えをお願いしたい。

【保健管理・安全管理】

意　見７：能登半島地震では発生が１月１日の休日であったので被害が少なかった。在校時の対応方法等について再度生徒職員間で共有し、まずは命を守ることを一番に整理してほしい。

意　見８：小中学生は地域と一緒になって防災について探究する学習の動きがある。できれば高校生も一緒にやっていけたらと考えている。またアイディアが具現化したら相談させていただきたい。

意　見９：防災リーダーの育成をお願いしたい。活動については、例えば生徒自らが教員と一緒に備蓄品庫の点検を行うなども考えられる。

【キャリア教育】

意　見10：「探究活動に取り組むプロセスを学ぶ機会が少なかった」ことが今年度の課題と記載されているが具体を教えてほしい。

⇒探究学習において大切な「ループ（スパイラル）を重ね向上させる」部分が伝えきれなかったと考えている。来年度に繋げたい。

意　見11：ＡＩのコンプライアンスについて検討は進んでいるか。

⇒昨年、著作権の問題等使用上の注意点について、文科省の通知を生徒に示した。それを指針に伝えていきたい。また、ＡＩが出来ないことは問う力。課題を「見つける力」を鍛えていかなくてはいけないとも感じている。

（２）学校公式ポロシャツについて

※生徒会長、副会長、ポロシャツ委員会委員長より課題、目的、素材、デザインについて説明。

意　見12：敏感肌への配慮があるのが、とても良いと思った。他にも課題を見つめながら進

めてもらえばよい。

意　見13：胸の刺繍のワンポイントについて、考案したデザインについてプリントではなく刺繍にした理由はあるか。

⇒プリントは長期使用で剥げが予想される。

特活部長：御賛同いただけるか。（全員拍手で賛同。）

（３）YCK 報告会の感想及び質疑応答

意　見14：自分たちの問題がなかなか取り上げてもらえない。先生方にも地域の問題を知ってほしい。

意　見15：基本的には素晴らしい内容だったと思うが、昨年と比べて情熱が足りない。課題設定に原因があるのではないか。「これは何とかしないといけない」と思うと滲み出来てくる。「みんなが困っていることは何か」でもっていけると良いのではないか。水準は高いので、情熱の部分の持っていき方の工夫でぐっと伸びてくる。是非そのあたりを工夫してもらえれば。

意　見16：綺麗にまとめるだけでなく、もっといろいろな形があってもよかったのではないか。昨年の種倉に行った生徒は、思いが伝わってきた。そういうところで伝える力がついてくるのではないか。

６　会議のまとめ

第３回学校運営協議会において、各分掌長から今年度の取組と自己評価を説明し、委員から質問や助言をいただいた。探究学習の取組については更なる発展につながる示唆もあり、来年度に向け、校内で共有し体制を整えていきたい。また、生徒会の取組については「真の探究活動となっている」とお褒めの言葉を頂戴した。現在、さらに多方面からの視点を加え、来年度からの実現に向けて準備を整えている。今回も多くの意見を得て、活発な意見交流の場となった。この成果を活かし、なお一層、生徒がいきいきと活動でき、夢を実現することができる学校となるよう体制を整えていきたい。